

9 小児科・新生児内科研修プログラムの概要

1. プログラムの目的と特徴

新生児から思春期、場合によっては成人に至るまでの患者さんを対象として、一般小児科医としてのプライマリーケアに十分対応できる総合的な臨床能力を身につけるとともに、各専門分野の知識・技量の習得および小児科学会認定の小児科専門医取得を目的とする。

当院は市中総合病院であるとともに三次救急医療を担う救命救急センターを持っているため、喘息、肺炎といった common disease から、けいれん重積、呼吸不全、多臓器不全等の救急・重症疾患まで、幅広い疾患を経験できる。新生児専門医取得を目指す場合は、小児科専門医取得後さらに 3 年間の新生児研修が必要であるが、その場合当科で研修可能である。

2. 研修内容と到達目標

1 年目

GI0：一般小児科医としてのプライマリ・ケアに対応できる総合的能力を身につける

SBO:

- 1) 年齢に応じた病歴の聴取・診察・重症度の判断ができる。
- 2) 救急外来受診患者の初期対応ができる。
- 3) 採血、点滴、腰椎穿刺、骨髄穿刺、気管内挿管、人工呼吸器管理を実施できる。
- 4) PBLs、PALS を受講し、緊急時対応ができる（心肺蘇生、ショック・致死性不整脈への対応等）。
- 5) 諸検査施行時の鎮静ができる。
- 6) 乳幼児健診・予防接種について理解し、実施できる。
- 7) 適切な輸液・輸血ができる。
- 8) Common disease（喘息、肺炎、細気管支炎、胃腸炎、髄膜炎、熱性けいれん、てんかん、川崎病、アレルギー性紫斑病、ITP、貧血、腸重積症、尿路感染症、腎炎、先天性心疾患、低身長、夜尿症、各種感染症）の診断・一般的治療ができる。
- 9) 適切な専門医にコンサルトできる。

2・3 年目

GI0: 専門分野の知識・技量を習得するとともに、学生・後輩レジデントに対する教育や学会・論文発表の能力を身につける

SBO:

- 1) 集中治療：多臓器不全等の重症患者の呼吸・循環管理、DIC の診断・治療等の全身管理ができる。
- 2) 神経：脳炎・脳症、意識障害、けいれん重積、麻痺等の診断と治療ができる。
- 3) アレルギー：食物アレルギー、アナフィラキシーショック、重症気管支喘息の治療ができる。
- 4) 心臓：先天性心疾患患児への超音波検査・心臓カテーテル検査等による診断、心不全治療、術前・術後管理ができる。
- 5) 内分泌：糖尿病、甲状腺疾患、先天性副腎過形成、思春期早発症の診断・治療ができる。
- 6) 腎臓：ネフローゼ症候群、慢性腎炎、急性腎不全の診断（腎生検を含めて）・治療ができる。
- 7) 膠原病：若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデスの診断・治療ができる。
- 8) 外科疾患：幽門狭窄症、虫垂炎、腹膜炎、拘扼性イレウス等の外科的疾患を診断し、小児外科にコンサルトできる。
- 9) 新生児：正常新生児の診察、病的新生児の診断・重症度評価ができる。仮死の蘇生を含めた分娩立会いができる。新生児期の一般的疾患（黄疸、新生児仮死、胎便吸引症候群、新生児一過性多呼吸、低血糖、けいれん）を診断し治療できる。新生児の外科的疾患を診断し、小児外科にコンサルトできる。
- 10) 学生・後輩レジデントの指導ができる。
- 11) 学会発表、論文発表ができる。